

# 1. 評価報告概要表

作成日平成21年 8月 6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1090100106
法人名	株式会社ケア・コスモス
事業所名	グループホームルルドの家
所在地	前橋市公田町1165番地 (電話) 027-265-6222

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年7月29日

## 【情報提供票より】(平成21年 7月 15日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 20年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	12人 非常勤 5人 常勤換算 人

### (2)建物概要

建物構造	木造モルタル		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	電気使用料 実費・寝具代1日150円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 130,000	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	420 円	昼食 420 円
	夕食	420 円	おやつ 円
	又は1日 1,260円		

### (4)利用者の概要( 7月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 85.5 歳	最低	63 歳	最高	99 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	小野内科クリニック ・ 群馬ペインクリニック ・ 六供歯科
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、利根川と健康スポーツ施設に隣接した自然豊かな環境の中にあるフランス風の建物である。広い芝生の庭には木陰にベンチが置かれ、入居者の散歩の場となっている。入居者一人ひとりの希望や意見を個別支援にと、アンケートを本人から実施し、介護計画や日々の介護の参考にしている。更に、地域との交流を大切にしていこうと理念を見直し、「ルルドの家通信」を近隣に配布したり、事業所の紹介や行事等の案内をする等地域との係わりを大切にしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題を話し合い、環境改善として(防火設備・非常通路の整備・段差の解消・照明器具の交換・入浴時の安全器具等)取り組まれているが、他の改善項目の改善内容が明確になっていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の資料を各棟に配布しているが、意見は求めず管理者が作成し、全職員での取り組みとはなっていない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月毎に同法人の他事業所と合同で行っている。内容は事業所から利用状況、行事報告、今後の予定、研修報告、外部評価結果の報告をし意見交換をしている。地域との係わりについて話し合い、「ルルドの家通信」を近隣に配ったり、地域の新聞にグループホームについて載せてもらい、認知症について理解を深めていただく等、意見を参考に取り組んでいる。また、防災や災害時に対して協力体制作りを呼びかけている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には、面会時や介護計画見直し時に、暮らしぶりや健康状態を報告し、緊急時は電話で知らせ、同時に意見や要望を聞いている。また、入居者には年2~3回アンケートで希望や意見を聞いている。家族からの「廊下の電気が暗いのでは」の意見に対しては申し送り時に話し合い、明るく替える等出された意見は運営に反映している。玄関に意見箱の設置がされている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の人々との交流は、散歩時の挨拶や地域の納涼祭に出かけたり、事業所の納涼祭に地域の方を呼び交流をしている。事業所の「ルルドの家通信」を近所に配ったり、地域の新聞等でグループホームを知らせる等地域の人々と交流を深めるよう努力している。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「心の癒しを介護の心とし、地域との交流を大切に、いつまでも生きがいをもって社会と関わられるよう支援する」とし、地域社会との係わりを加え作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホールに掲げている。管理者と職員は、カンファレンスや日々の介護実践の中で理念に立ちかえり話し合っているが、全職員のものになっていない。	○	理念を全職員に説明し、話し合いを持ちながら全職員のものとし、理念の実践にむけて取り組むことを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時の挨拶や地域の納涼祭に出かけたり、事業所の納涼祭には自治会長を通し、地域の方へ呼びかけ参加をいただいている。近隣の方に事業所を知っていただく為に「ルルドの家通信」を年4回配ったり、地域の新聞にグループホームのお知らせを載せていただく等交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の資料を各棟へ配っているが、意見は求めず管理者が作成している。外部評価の改善課題は話し合い、環境改善(防火設備・避難通路の整備・段差の解消・照明器具の交換・入浴時の安全器具等)に取り組んでいるが、他の改善内容が明確ではない	○	全職員で自己評価に取り組み、外部評価改善課題は、改善計画シートを作成し、計画的に取り組まれるよう期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に同法人の他事業所と合同で行われている。事業所から、利用状況、行事報告、研修報告、外部評価結果を報告し、意見交換をしている。地域との係わりについて話し合い、意見を参考に「ルルドの家通信」の近隣への配布、地域の新聞にグループホームについての掲載など、認知症についての理解を深めていただく取り組みをしている。また、防火、災害についての呼びかけ等が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護支援専門員が窓口となり、サービス提供の在り方、法律、介護保険、介護度等でわからない時には聞いている。また、市担当者とは運営推進会議で情報交換をしているが、管理者として判断できない問題が生じた時は相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や介護計画見直し時に、暮らしぶりや健康状態を報告し、緊急時は電話で知らせている。また、毎月請求書と「ルルドの家通信」を送付し、暮らしぶりや行事の様子を知らせている。預かり金上限額は3万円とし出納帳で管理し、収支については不定期に家族に報告し了解をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や介護計画見直し時等に、家族の意見や要望等を聞いたり、入居者にアンケートを実施し、希望や意見を聞き参考にしている。家族からの「廊下の電気が暗いのでは」の意見に、申し送り時に話し合い明るいものと交換する等、運営に反映している。また、玄関には意見箱が設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を最小限に抑える為、事業所の管理者だけでなく、設立母体からサポートを行うスタッフが巡回し、悩みや相談のアドバイスを行っている。事情により異動が発生した場合は、利用者の状況に応じた説明を行い、ダメージを防ぐ配慮をしているが、家族には知らせていない。	○	「ルルドの家通信」を活用する等、家族にも職員の異動や離職等を知らせることを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、その職員にあったものを選んで参加し、報告書を作成しカンファレンス時等で報告している。また、年度内外部研修の計画を立てている。法人内研修では、外部講師にて研修を行い、事業所の各棟毎に皮膚剥離についての研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会には入っていない。近隣にある同法人の他グループホーム職員との交流や設立母体職員と話し合い勉強会を行っているが、他グループホームとの交流はない。	○	管理者や職員が他法人の事業所との交流や連携等を通じて、日々のサービスや職員育成に役立つ取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に面接し、納得の上で利用していただいている。また、体験宿泊も行っている。入居後は、事業所の雰囲気に馴染めるよう努力しているが、馴染めるまで家族や親戚と連携を取りながら行っている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	清掃や下膳、後片付け、洗濯物たたみ等を、職員と一緒にやっている。子供の頃の前橋のチンチン電車や戦争当時の話等を、教えていただくこともある。時には、テレビドラマを一緒にみて泣いたり笑ったりと過ごすこともあったり、入居者から労いの言葉をもらうこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は3名の入居者を担当しており、どの服を着るのか等日々意向を聞いている。また、年に3回入居者に食べたいもの、行ってみたい所、会いたい人等11項目に亘ってアンケートに記入していただき、一人ひとりの暮らしの希望や意向の把握に努め、それらを参考に個別支援に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が本人や家族から要望を聞き、入居者アンケートを参考にしながら、カンファレンス(月に1回)に入居者状況等を所定の用紙にて提出している。それをもとに職員間で討議して、介護支援専門員が介護計画を作成している。家族には面会時に説明し、確認をいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスやモニタリングを毎月実施、見直しを行っている。心身の状態変化時は担当職員と話し合い、家族や主治医の意見も参考にし、随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診時や緊急受診時の送迎や、行きつけの理美容院への送迎を行っている。家族の要望により、結婚式や配偶者の葬式に職員が介助しながら付き添いを行う等柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医としている。事業所の協力医は月2回の定期訪問診療を行い、全利用者の健康管理をしている。受診結果は家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	方針の統一化は全職員で行っている。脱水、発熱等で重度化し医療処置が必要な場合は、家族、主治医で話し合うなどして入院治療としている。終末期は、医療ニーズが高まった段階で家族、主治医、運営者、職員と話し合いを行い、入院対応をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本方針に「人権と意思を尊重し、一人ひとりに合った介護を心がけます」を掲げ、日々のケアの中でプライバシーや尊厳を損ねないようにしている。居室にはノックをして挨拶をして入り、オムツ交換時やトイレ介助時にも注意して対応している。書類は、事務所のロッカーに保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、一人ひとりのペースを大切にしている。食事のペースを入居者に合わせたり、食べたくない時には後で自室で食べるなど支援している。カラオケをしたり、テレビやビデオを観たり、散歩に庭へ出たり本人の希望に添って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、皮むき等の下拵え、下膳、食器洗い等出来ることを職員と一緒にやっている。職員は、行事等がある時は、入居者と一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・火・木・金を入浴日とし、入居者から希望を聞いて支援している。機械浴は午前、一般浴は午後A・B棟で共同で行い、週2回は入れるよう支援している。拒否する入居者には、時間や曜日を変えて支援している。季節感を取り入れゆず湯も行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の心身の状態に応じて、下膳、テーブル拭き、食器洗い、洗濯物たたみ、モップ掛け等を役割として行ってもらっている。そば打ちをして皆で食べたことがあり、外食や散歩に出かけて楽しみと気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの庭が広く庭での散歩は日常的に行い、近隣の散歩も行っている。外食や買い物等(個別支援)希望に添って戸外に出られるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉や玄関には、日中は鍵をかけないように努力している。利用者の状況により、見守りをして所在の確認をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回～4回の避難訓練を行い、毎回入居者も参加している。うち2回は消防署立ち会いで指導を受けている。夜間も想定して行っており防災設備も整備され、管理者は防災管理の研修を受けている。近隣住民への理解を求め、災害時の協力依頼を開始している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A・B棟、同じ献立である。献立は、管理栄養士(介護支援専門員)が入居者の希望も取り入れてバランスよく作成している。食事摂取量・水分摂取量を記録し、職員間で共有している。一人ひとりの状態や力に応じて、食事形態はペースト状、とろみ等で提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花や観葉植物が置かれ、木製の椅子がセットされている。ホール兼食堂は広くガラス窓からの光が入り明るく、庭の芝生や木の緑がみえる。施設内の要所要所に手すりが取り付けられてあり、居心地良く過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた椅子やテレビ等を持ち込み、手作りの壁かけや写真等が飾られ、居心地良く過ごせるよう工夫している。		